

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産振興費

事業名 共同利用模範牧場土地借上料

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 畜産振興課 畜産基盤係 電話番号：058-272-1111 (内 2878)

E-mail: c11437@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 16,166 千円 (前年度予算額：16,165 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	16,165	0	0	0	0	0	0	0	16,165
要求額	16,166	0	0	0	0	0	0	0	16,166
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

牧場設置時以降、東濃牧場においては恵那市を通して多数の地権者から土地の賃借を行っている。土地は S46 から借りており、第Ⅰ期(20年, S46-H2)、第Ⅱ期(10年, H3-12)、第Ⅲ期(10年, H13-22)そして現在、第Ⅳ期(10年, H23-R2)目であり、令和2年度末で満期を迎えるため、現在、次期契約に向け、条件交渉中である。

なお、現在の契約のための前回の契約更改時には、協議の結果、23.0円/坪(6円値下げ)で妥結している。

飛騨牧場においては大部分が県有地であるが、国(森林管理署)からは国有林野、また高山市からは土地の賃借を行っている。

(2) 事業内容

県有の公共牧場である東濃牧場、飛騨牧場の用地に係る土地借上料の支払いを行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

県費 10/10 県営牧場の用地のため全額県負担

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
使用料及び 賃借料	16,166	(1) 東濃牧場 【借上土地所在地】 恵那市長島町鍋山 ほか 【借上先】 恵那市 【地目】 山林等 【面積】 2,291,463 m ² (693,164 坪) 【要求額】 15,942,000 円 (坪単価: 23.0 円/坪) (2) 飛騨牧場 【借上土地所在地】 高山市清見町大字巢野俣 龍ヶ峰国有林 4 0 【借上先】 飛騨森林管理署 【地目】 山林等 【面積】 355 m ² 【要求額】 4,100 円 (国有林野使用許可書第 6 条による) (3) 飛騨牧場 【借上土地所在地】 高山市荘川町黒谷字横根尾 7 4 8 - 1 【借上先】 高山市 【地目】 山林等 【面積】 172,817 m ² 【要求額】 219,000 円
合計	16,166	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

県営公共牧場の安定利用のために、土地の賃借は継続して必要。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 県営公共牧場である東濃牧場、飛騨牧場の用地に係る土地借上料の支払いを行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(R)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(R)	%

○指標を設定することができない場合の理由

賃貸借契約書に基づく土地の使用料の支払いの予算であるため、指標を設定するにそぐわない。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
【借上土地所在地】
 ・東濃牧場 恵那市長島町鍋山ほか 2,291,463m²
 ・飛騨牧場 高山市清見町大字巣野俣 竜ヶ峰国有林 355m²
 ・飛騨牧場 高山市荘川町黒谷字横根尾 784-1 172,817m²

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 本事業により昭和46年度の牧場設置以来、県営公共牧場の安定的な利用が可能となっている。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価) ○	県営公共牧場の安定利用のためには、継続的に必要である。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価)	
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価)	

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 借上料の単価及び低利用土地については、地権者等の理解を得ながら調整していく必要がある。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 次期契約に向けた協議において、県ルールによる算定単価との乖離の解消を図り、契約額の適正化に努める。 また、今後、低利用地の一部を返還する交渉も進め、土地利用、牧場運営の合理化を図っていく。
--